

## 大阪大学経営協議会（平成28年度 第2回）議事要旨

日 時 平成28年9月1日（木）14時00分～16時33分

場 所 大阪大学中之島センター 9階会議室1・2

出席者 西尾総長（議長）

井上、井野瀬、大石、尾崎、佐藤、鈴木、土屋、友野、鳥井、村尾、米田、三成、  
八木、小川、山中、吉川、工藤、鬼澤、堂目、河原、澤、有川 各委員

欠席者 津賀、野路、CASSIM、小林 委員

議事に先立ち、西尾議長より委員の紹介及び会議開催に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。なお、前回（6月6日開催）の議事要旨については、既に各委員に照会し、内容を確定して本学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

### 議 事

#### 【議事】

#### 1 役員の任命等について

西尾議長から、配付資料に基づき、理事の辞任に伴い、平成28年8月1日付で理事1名を任命したこと及び同理事を副学長に指名したことについて報告があった。

#### 2 総長参与及び総長特命補佐の指名について

西尾議長から、配付資料に基づき、平成28年8月25日の任期満了に伴い、総長参与8名及び総長特命補佐5名を引き続き指名したことについて報告があった。

#### 3 平成29年度概算要求事項について

三成委員から、配付資料に基づき、文部科学省に提出した平成29年度概算要求事項について報告があった。

#### 4 箕面キャンパス移転に伴う土地・建物の譲渡について

小川委員から、配付資料に基づき、箕面市と締結した「大阪大学箕面キャンパスの移転に係る合意書」により、現箕面キャンパスの土地建物を箕面市に譲渡することについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

#### 5 中之島アゴラ構想について

西尾議長から、配付資料に基づき、大阪市からの要請によりとりまとめた中之島4丁目再開発における本学の基本構想案を、平成28年8月24日付で大阪市及び大阪府に提案したこと及びその経緯等について報告があった。

#### 6 役員退職手当に係る業績勘案率について

西尾議長から、配付資料に基づき、平成28年7月31日で退任した理事の退職手当の算定時に総合的に勘案する業績勘案率について説明があり、審議の結果、これを承認した。

#### 7 理事の報酬額について

西尾議長から、配付資料に基づき、新たに就任した理事の報酬額について説明があり、審議の結果、これを承認した。

#### 8 教職員の給与について

鬼澤委員から、配付資料に基づき、夜間診療等手当の新設、時間給額の改定及び組織の改廃に伴う管理職の範囲等の見直しについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

#### 9 前回のご意見に対する取組状況について

西尾議長から、配付資料に基づき、前回の本協議会で学外委員からいただいた意見や助言に対する取組状況について報告があった。

### 【その他】

#### 1 平成27事業年度財務諸表について

西尾議長から、前回の本協議会にて審議した平成27年度決算報告の詳細版で、文部科学大臣へ提出した平成27事業年度財務諸表を参考に配付している旨の説明があった。

#### 2 京都大学・大阪大学・神戸大学3大学シンポジウムについて

西尾議長から、配付資料に基づき、京都大学・大阪大学・神戸大学3大学シンポジウムへの参加案内があった。

#### 3 大阪大学の集いについて

工藤委員から、配付資料に基づき、東京で開催する大阪大学の集いへの参加案内があった。

### 【意見交換】

#### 1 産学連携から産学共創へ

吉川委員から、配付資料に基づき、本学の取り組み等について説明があった後、学外委員から以下のような意見があった。

- ・産学連携においては、連携先の業界のことを理解している人材がいることにより、深い部分でディスカッションができるようになり、産学連携がうまく進んでいく。
- ・デザインの概念がうまく機能している企業は成長している。大阪大学とは技術だけでなく、もう少し幅広いデザインという分野において、単なる連携ではない共創の交流ができればと考えている。

- どうすれば企業において、よりクリエイティブな発想が持てるのかを考えているが、社員が産学連携を通して、隠れた重要なテーマを見つけるような能力を学ぶことができれば、企業の競争力が向上するのではないかな。
- 産学共創を強化していくためには、弁理士、国際特許の専門家などのリーガルな人材を配置し、教員と企業との調整をしてもらえば、スムーズにいくのではないかな。また、企業が大学のキャンパスへ行くだけでなく、大学の教員も企業へ来てほしい。
- 再生医療のような新しい分野においては、製薬企業という範疇を超えて他の産業との連携も必要となるため、新たな枠組みでの事業や新しい産業も生まれるのではないかな。
- 大阪大学では協奏という言葉も使っているが、人材育成の観点からの産学連携という意味で、複数にまたがる事柄をうまくつないで、指揮者のように全体をまとめていく人材を育てていく必要もあるのではないかな。
- アジアの優秀な学生を日本企業に紹介するASEAN CAREER FAIRを開催する等、企業に対する優秀な人材の提供に大阪大学が役立っていること自体が社会貢献であるが、それをさらに広げるきっかけが何かあるのではないかな。
- 産学連携については医・薬・工の事例が多いが、一つの学部や領域ではなく、大学全体として文系の学部を含め連携していくためには、より幅広く考える必要がある。もっと領域を広げて、文系を含めたCo-Creationを考えてほしい。
- 学生がビジネスプランコンテストに参加することは、若いうちから横断的に取り組むことや、社会との接点を持つという意味でも良い機会になっているため、大阪大学自体がビジネスプランコンテストを主催する等、力を入れてほしい。
- Co-Creationにおいて重要なことは、プロセスから可視化していくことであり、大阪大学は何に取り組んでいるのか、その形を学内外に見せていくところに、人文社会科学の知というものが生きてくる。
- 研究開発プロセスの改革が必要な時代であり、時代変化に対応して新たな価値を素早く創造していく社会に貢献していくためにも、データが生み出される実社会や顧客の現場を新たな研究フィールドに設定した共同研究を行うことが非常に重要だと考えている。

(以 上)